［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年9月29日

【評価実施概要】

事業所番号	4073000608
法人名	医療法人牧和会
事業所名	ピアッツァ桜台 グループホーム
所在地 （電話番号）	福岡県筑紫野市常松456番地の2 （電 話）092－919－2566
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7－1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成21年8月7日

【情報提供票より】（平成21年7月2日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成 15年 7月 1日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計 9 人
職員数	8 人	常勤 8人，非常勤 人，常勤換算 6.8人

（2）建物概要

建物形態	(併設)／単独	(新築)／改築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	3 階建ての 階 ～ 1 階部分	

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	65,000 円		その他の経費（月額）	円
敷 金	有（ 円）		(無)	
保証金の有無 （入居一時金含む）	(有)（ 180,000 円） 無		有りの場合 償却の有無	有／(無)
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	700 円	おやつ	昼食代に含む 円
	または1日当たり 円			

（4）利用者の概要（平成21年7月2日現在）

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	5	名	要介護2	2	名
要介護3	1	名	要介護4	1	名
要介護5	0	名	要支援2	0	名
年齢 平均	83 歳	最低	68 歳	最高	92 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	医療法人牧和会 牧病院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

春は桜台の名にふさわしく桜の花が咲き誇り、緑豊な環境の中に牧病院を母体とした介護老人保健施設、介護支援事業所、筑紫野市地域包括支援センターが同じ敷地内に併設されている。ホームは3階建物の1階部分にあり、桜の季節は、散歩に出ることも多く、大きな楽しみともなっている。管理者や職員は利用者一人ひとりの個性を尊重し、主体性をもって楽しく過ごせるように取り組まれている。また、日常生活のあらゆる場面で職員と利用者が一緒に協働しながら明るく和やかに生活できように工夫している。今後、さらに期待できるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

前回の改善点については、カンファレンスや勉強会をしたり、職員一人ひとりがいつでも見れるように資料を準備し、手に取りやすい所に置いて理解を深め、改善に努めている。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

自己評価票は、職員各自が記入した後に全員で話し合い作成され、最後に管理者が見直しをして作られている。そのプロセスで職員は、日々の業務を見直す機会を得ている。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

運営推進会議を2ヶ月に1度開催している。地区の民生委員、区長、市役所職員、家族、利用者全員が参加している。活発に意見を言われるが、利用者の前では家族の意見が出にくいのではないか、ということもあり、2回に1回は利用者を外した運営推進会議を開催されている。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部8，9）

毎月、月初めに健康保険証の確認を兼ねて家族の訪問をお願いし、その時、利用者の生活状況等の報告をしている。遠方の家族にはファックスにて毎月状況を知らせている。また、金銭的なことについては預かりも立て替えもしていない。利用者の一人ひとりが5千円程度は自己管理している。高額な買い物については家族に依頼している。苦情箱を設置しているが、意見や苦情が聞かれないため、家族の訪問時に気軽に意見が言えるように雰囲気つくりに工夫している。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

隣接する地区が3カ所ある。民生委員の方に運営推進会議に出席していただいている。グリーンデイが年2回あるので、積極的に参加している。地域の保育所との交流を年2回行っている。また、併設施設全体の「夏まつり」に地域の方と一緒に参加している。

2. 調 査 結 果(詳細)

（ □ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は玄関の真正面に「家族とともにその人の持っている力を大事にしたケアを行います。」「安心し、落ち着いて生活出来る環境つくりを行います。」と掲げてあるが、地域との関係性が謳われていない。	○	これまでの理念に加えて、地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、事業所と地域の関係を謳った理念を作りあげることが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の引き継ぎ時に理念を唱和している。月1回の職員会議の時に理念に立ち返り、利用者の能力の理解などを含め、どんな風に取り組んでいるか話し合っている。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣接する地区が3カ所ある。民生委員の方に運営推進会議に出席していただいている。グリーンデイが年2回あるので、積極的に参加している。地域の保育所との交流を年2回行っている。また、併設施設全体の「夏まつり」に地域の方と一緒に参加している。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価票は、職員各自が記入した後に全員で話し合い作成され、最後に管理者が見直しをして作られている。これまでの改善点は取り組んでいる。外部評価を毎年受けている中で、自己評価、外部評価ともに本当に勉強になると、改めて認識されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1度開催している。地区の民生委員、区長、市役所職員、家族、利用者全員が参加している。活発に意見を言われるが、利用者の前では家族の意見が出にくいのではないか、ということもあり、2回に1回は利用者を外した運営推進会議を開催されている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険の仕組みなど解らないことがあれば尋ね、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。最近は利用料が滞り、問題になりそうなケースについて相談した。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度制度を利用している利用者がおり、職員も制度について理解している。必要と思われる利用者には、活用できるように働きかけている。		
４．理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、月初めに健康保険証の確認を兼ねて家族の訪問をお願いし、その時、利用者の生活状況等の報告をしている。遠方の家族にはファックスにて毎月状況を知らせている。また、金銭的なことについては預かりも立て替えもしていない。利用者一人ひとりが5千円程度を自己管理している。高額な買い物については家族へ依頼している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を設置しているが、意見や不満が聞かれないため、家族の訪問時に気軽に意見が言えるように雰囲気つくりを工夫している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的に異動があるが、なるべく異動がないように配慮し、利用者へのダメージを防ぐようにしている。		
５．人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用時に年齢や性別を理由に採用対象から排除することはない。職員の希望に応じた勤務体制を柔軟に組み、社会参加できるように配慮している。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人の中で月に2回勉強会があり、その中に人権学習も含まれている。出席できなかった人には伝達研修を行っている。特に虐待については意識するように声掛けしている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で教育委員会をつくって新人研修をしている。何回も転倒させたり、事故の危険性のある人を対象に教育係りを作っている。最低月2回の勉強会が行われている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等で他事業所と交流の機会があり、困難事例等の相談をしている。また、介護福祉士会主催のグループホーム交流会に参加するなどの活動を通じてサービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	以前は体験入居もして頂いていたが、自宅へ戻られてから混乱されることが多かったので、今では、まず見学してもらい良かったら即入居してもらっている。入居前に事業所から自宅へ出向いて、様子を見てできる限り自宅と差がないように、馴染めるように配慮している。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔の生活と今の生活が大きく違っていおり、物を大切にする心をたくさん教えてもらっている。一人ひとり生活の歴史があり、話してもらったり、職員自身のことを相談したりもしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1．一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時に本人・家族から生活歴や意向を聞き取り、日々の関わりの中でも利用者の思いや希望を把握している。意思疎通困難な場合は、表情や声かけの反応を見て希望や思いを汲み取るようにしている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	職員が利用者1名～2名を担当しており、本人、家族、他の職員などと話し合って、それぞれの意見・要望を反映した介護計画を作成している。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3か月毎に職員間で話し合って見直しを行っている。また、見直し以前に入院や身心状況に変化が生じた場合は、本人、家族、関係者で話し合い新たな計画を作成している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の宿泊支援をしたり、家族による受診困難な場合には職員が付き添って受診するなど、その時々の状況や要望に応じて柔軟な支援をしている。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医を受診する方やホームの協力医療機関を希望する方など、本人・家族の希望に沿って適切な医療を受けられるように支援をしている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始前に「当施設でのターミナルケアについてのご説明」を書面にて本人・家族の意向を確認している。更に、重度化した場合は家族、かかりつけ医など必要な関係者全員で話し合って方針を共有している。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の誇りやプライバシーを損ねるような対応や言葉かけをしていない。個人情報等の書類は事務所内の書類棚に保管して個人情報保護を徹底している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	テーブルで食材の野菜を切っている人、ソファーに座り職員と座っている人、部屋のベッドで横になっている人など、思い思いの時間を過ごしている。起床・就寝・入浴時間などの取り決めはなく、夜遅くまで居間で過ごす方もおられ、一人ひとりのペースに合わせて希望にそって支援している。		
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は食材の切り込み、卓上電気コンロでオクラを茹でる、盛り付け、テーブルに並べるなど、職員と利用者が一緒に楽しく準備して、食事を摂っている。また、食後の後片づけなどの役割を持っている方もいる。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は時間や日にちの取り決めはなく、希望すればいつでも可能である。しかし、ほとんどの利用者が昼食後に毎日入浴しており、拒否する利用者はいない。毎週日曜日は併設施設のさくら湯（温泉）へ出かけるのを楽しみにしている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	プランターで育てているトウモロコシやオクラや花などへの水やり、草むしり、食事の盛り付け、食器洗い、テーブル拭き、食材の切り込みなど一人ひとりの力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	広い敷地内には樹木が多く、玄関を出て職員と一緒に散歩する機会が多い。季節によっては、コスモス、桜、紅葉などが咲き、散歩の楽しみも大きい。また、近くにドラッグストアがあり、希望する利用者と一緒に出かけている。		
（4）安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者・職員は日中施錠することの弊害を理解しており、夜間は玄関の施錠をしている。しかし、日中は施錠せず自由に出入りできる。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	6月に併設施設と合同で夜間を想定した避難訓練を実施している。秋には大規模災害を想定した訓練を実施予定で職員も緊急時の一時避難場所や避難経路について理解している。地域住民等の協力は図られていない。	○	避難訓練に地域の消防団員や地域住民等の協力が得られるよう働きかけることが望まれる。
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の管理栄養士が立てた献立表に基づいて委託先業者の職員が来て、調理している。一日の食事摂取量を記録して栄養バランスと食べる量の把握に努めている。更に居間に冷温水器を設置していつでも自由に水分補給できるように工夫されている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	流し台が対面式になっており、作業をしながら利用者の様子が観察できるように工夫されている。皆が集う居間には布製の手作りカレンダーがあり、あたたかい雰囲気がある。また、居間に面したガラス戸越しに利用者、職員で植えたゴーヤ・キュウリなどのグリーンカーテンが風にそよいでおり、生活感や季節感を採り入れて居心地よく過ごせるよう工夫している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファーやテーブル、使い慣れた家具、仏壇等を持ち込んでいる。家族写真や鉢植えの花を飾ってあり、本人、家族と相談して居心地よく過ごせるように工夫している。		